

畜産センター だより

就任のあいさつ

所長 安達 善則

昨年5月26日の人事異動において、畜産センター長を拝命いたしました。当職は、京都府畜産関係の研究及び家畜の改良増殖の要の職であり、身の引き締まる思いです。

畜産農家の皆様方には、日頃から畜産センターの業務推進に格別のご理解とご支援を賜っていますことを厚く御礼申し上げます。

私が畜産課で課長補佐兼家畜衛生係長をしていた平成12年以来、10年ぶりに同じ宮崎県で口蹄疫が発生しました。7月27日には98日間に及んだ「移動制限」が解除され、8月27日には当時の東国原知事による「終息宣言」が出され、子牛市場も順次再開されています。私は、近年、4度宮崎県を訪れその都度、宮崎県家畜改良事業団を視察しており、まだ若くて実績のない「忠富士」が大好きでした。不幸にして感染が確認され殺処分されましたが、22年度の碓牧場への導入牛13頭全てが「忠富士」産子であったことは、幸いでした。(その後、全農妊娠牛2頭を購入) 宮崎牛の復活を心より願っています。

さて、我が国の畜産を巡る情勢は、世界的な景気の低迷、飼料価格の高止まり、政権交代等を受けて極めて厳しい状況にあります。京都府においては、ほとんどの畜種において、頭数は何とか維持しているものの、飼養戸数の減少には歯止めがかからない状況が続いています。

当センターでは、昨年度の試験研究機関の組織統合の利点である耕畜連携を生かした①タスクチームによる飼料米に関する研究・流通指導②レンタカウ・サポートカウによる耕作放棄地の解消及び獣害対策③地域未利用資源の利用促進④畜産環境対策等の試験研究に

取り組み、現地・現場に積極的に出かけて支援・指導を行う所存であります。お困りの時には是非声を掛けていただきたいと存じます。

また、昨年から実施している「付加価値を高めた京都の畜産物増産アクションプラン」達成のために、21年度には、①供胚牛及び交配精液の検討会②全農導入牛を利用した採胚と妊娠牛譲渡③枝肉成績の繁殖農家へのフィードバック等新たな取り組みを行いました。本年は、畜産農家・関係団体の協力体制を一層密にして、前進していきたいと思えます。

最後に、畜産農家の方はもとより、関係機関の皆様には何かとお世話になりますが、従前にも増して一層のご支援・ご協力をお願いします。

平成23年3月
第9号

京都府農林水産技術センター
畜産センター

〒623-0221 綾部市位田町檜前

電話:0773-47-0301

fax :0773-48-0722

MAIL:ngc-chikusan@pref.kyoto.lg.jp

URL:http://www.pref.kyoto.jp/chikken/

碓高原牧場

〒627-0248 京丹後市丹後町碓1

電話:0772-76-1121

fax :0772-76-1123

京都府農林水産技術センター

総務室 [亀岡市=旧 農業総合研究所]

企画室 [亀岡市]

農林センター

作物部・園芸部・環境部 [亀岡市]

森林技術センター(森林部) [亀岡市/京丹波町]

丹後農業研究所(丹後特産部) [京丹後市]

茶業研究所(宇治茶部) [宇治市]

生物資源研究センター [精華町]

基礎研究部・応用研究部

畜産センター

業務部 [綾部市] 庶務、経理、家畜の改良増殖

研究・支援部 [綾部市] 畜産物生産・環境に係る研究及び技術支援

碓高原牧場 [京丹後市] 和牛子牛・受精卵の生産譲渡、公共育成・ふれあい牧場

海洋センター [宮津市]

業務部・海洋調査部・海洋生物部

築いていこう差別のない明るい社会

畜産農家と地域支援のための 畜産センター

農林水産技術センター 畜産センターとして出発して、2年が経過します。畜産センターは①府民への安心・安全・高品質な畜産物提供や環境負荷軽減・循環型社会形成・農家の経営改善・きょうとブランド畜産物増産を進めるための技術支援とそのために必要な技術開発②京都和牛の振興と放牧の推進、付加価値を持つ畜産物生産、地域産業との連携による地域活性化支援③担い手に対する技術研修、家畜とのふれあいや体験学習を通じた憩いと食育の場の提供、碓高原牧場の観光資源としての価値向上など家畜と施設を活用した府民に開かれた畜産センターの展開を行います。

種雄候補牛の紹介

『玉碓218』産子の肥育検定実施中



畜産センター碓高原牧場で受精卵移植技術を活用し誕生した『玉碓218』は、父『百合茂』と「安平」の血統を継ぐ母『ひでこ』の間に平成17年に生まれた種雄候補牛です。

直接検定成績は、「体重」、「体高」、「胸囲」とともに発育推定値のほぼ上限の発育を示し、特に「体積」、「発育」の点に優れています。

本牛の産子は平成21年10月から碓高原牧場誕生し、畜産センター（綾部）で肥育し、平成24年4月に出荷します。出荷した産子の枝肉調査を行い、府内の繁殖農家の皆様に供用していただける計画で進めています。

血統

<父> 百合茂	<祖父> 平茂勝	生年月日	平成18年11月10日
	<曾祖父> 神高福	産地	京都府京丹後市碓
<母> ひでこ	<祖父> 安平	登録番号	黒 14479
	<曾祖父> 隆桜	検定成績	
		直接検定 (H19. 7. 26~19. 11. 15)	
		終了時得点	85.2点
		直検DG	1.21Kg
		粗飼料摂取率	61.0%



『京芳照』の肥育は終了

福芳土井を父とする兵庫県美方郡産の種雄牛候補『京芳照』の去勢産子3頭を当センターで平成20年6月から肥育を開始し、平成22年5月28日に終了しました。

血統情報

名号	京芳照		
生年月日	平成16年5月8日		
出生地	兵庫県美方郡		
登録番号(得点)	黒原4809(84.1)		
直接検定DG	1.36		
血統	父母	祖父母	曾祖父母
	福芳土井	谷福土井	安谷土井
		よしみ	きくつる
	ゆきひめ	菊照土井	菊安土井
			よしの
		おおみぞ	菊則土井
とくかね			
		安美土井	
		みつふく	



肥育開始月齢、体重は、10.6か月齢、318.3kg、肥育終了時月齢、体重は、33.7か月齢、868.7kg、通算一日増体重は、0.79Kg/日でした。

枝肉重量528.3kgと重く、肉量、肉付きは良いものの、ロース芯面積53.3cm²、BMS No. 3.7でした。また、各付けはA4、A3、A2は各1頭でした。

畜産センターの取り組み

肥育農家へのビタミン分析による指導

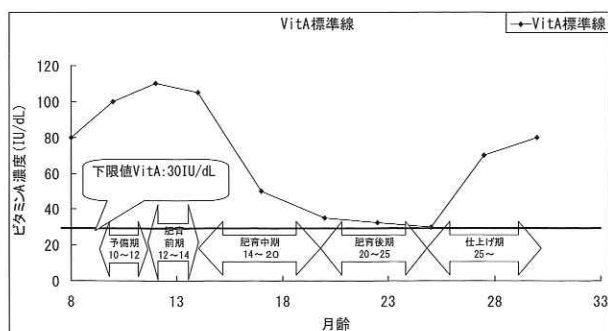
平成17年度から肥育農家で飼養されている肥育牛の血液を採血し、当センターでビタミンA(血中VA)を分析しています。

和牛肉の霜降り状態を最近では、「エー5」とか、「エー4」とかマスコミでも言うようになり、一般化した表現になっています。黒毛和種では、霜降りが最上級で筋間に脂肪がきめ細かく入る程、そのグレードは高くなります。



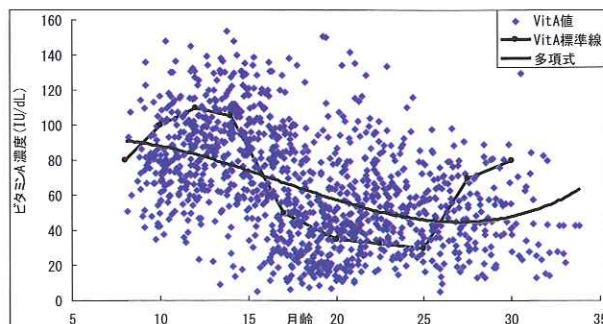
肥育中期(10か月～15か月)に飼料に含まれるビタミンA(VA)の投与を抑制すると脂肪の元母細胞が活発になり、脂肪交雑が促進、霜降り化されると言われています。この技術は既に一般化され、市販の中期肥育飼料には、VAが入っていないものもあります。ただ、VAを抑制すれば霜降りが入る訳ではありません。血統、飼料、環境等が微妙に関与し、霜降りができません。

現在、6農家から年間延べ1,000頭の牛から採血を行い血中VAの分析を行いました。



血中VAは、肥育前期では110IU/dl程度が理想とされていますが、40～140IU/dlと幅がありました。中期から後期にかけては30IU/dl程度に制限することが理想ですが、10～150IU/dlと前期同様、個体により幅がありました。仕上げ期では健康上80IU/dlまで上昇させることが望まれますが、平均40IU/dl程度と低く推移していました。

以上の測定結果と各肥育農家の飼料給与法との関連を検討したところ、特に肥育後期以降の飼料給与法の改善が必要であると思われました。



また、肥育素牛の導入時のVA濃度も40～150IU/dlと幅があったことから、導入元の繁殖農家における飼料給与法の斉一化が必要と考えられました。これらの情報を農家に還元し、飼養管理の改善を行っています。

碓高原牧場ではレンタカウを畜産センター(綾部)ではサポートカウを実施



平成13年度から碓高原牧場で飼われている和牛を利用した『レンタカウ』を開始しました。当初は、牛を貸し出すこと自体が、全国的に珍しく、手探り状態での実施でした。

中山間地域では、担い手不足による荒廃農地の増加や獣害被害が多くなり問題化していました。そのような状況であったためか、地域で「レンタカウ」は受け入れられました。

この10年間で39地区、延べ78頭の牛が貸し出されました。雑草化した農地の回復や獣害の被害が減少するなどの効果もある一方、小学生の写生大会を実施する地域もあり、地域の活性化の一躍を担うこともありました。

ただ、碓牧場の和牛だけでは、貸出に限界があったため、平成20年度から農家の和牛を活用した『サポートカウ』を事業化しました。

農家の和牛を畜産センターでお預かりし、放牧の慣らしを行った後、希望する地区に貸し出します。農家で飼われている牛は、案外、放牧が苦手なようで、慣らしをしないと、サポートカウにはなれません。この慣らしに約1か月かかります。地域に貸し出すと名前を付けてもらったり、雑草をたくさん食べ、見違えるほど立派になり、再び和牛農家に返ります。本年もサポートカウ事業を行いますので、興味のある方は畜産センター

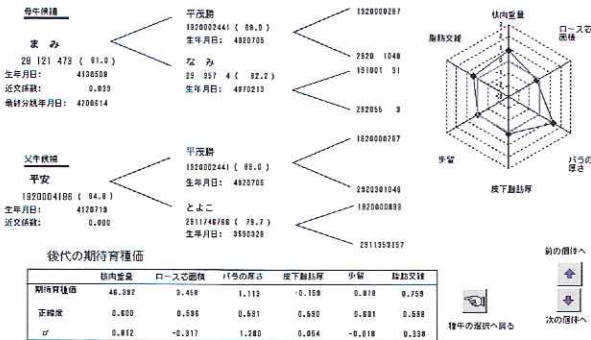
(TEL 0773-47-0301)へご一報ください。

和牛農家への支援 ～「育種価って？」～

畜産センターでは、和牛改良の取り組みの一つとして、種雄牛や繁殖雌牛の遺伝的な能力評価（育種価解析）に取り組んでいます。育種価は、多くの肥育牛の枝肉成績をもとにその親牛の枝肉重量、ロース芯面積、皮下脂肪厚、脂肪交雑等についての遺伝的能力を評価するものです。

府内繁殖雌牛の育種価の生年別傾向としては、枝肉重量、脂肪交雑ともに若い牛ほど高く、また、その父牛の府外種雄牛割合は若い牛ほど高くなっています。

解析した個体ごとの育種価は、その関係機関・団体（農協）にお知らせするとともに、子牛せり市の出場名簿には種雄牛、繁殖雌牛の育種価や両親の育種価が判明している子牛の期待育種価が表記され、繁殖雌牛の導入・保留や肥育素牛購入の参考として利用させていただくようにしています。



また、育種価による交配シミュレーションも行っていますので、是非ご相談ください。

研 究 成 果

乳牛舎におけるサシバエ対策

サシバエは、牛から吸血することで、予想以上に大きな影響を与えます。

牛は採食後、ふつうは横になって反芻しますが、ストレスのため落ち着かず立ったままになります。牛が自由に移動できるフリーストール牛舎では、サシバエからの攻撃を避けようとして密集します。ただでさえ暑い時期に、より強い暑熱ストレスを受けたり、他の牛が邪魔にな

り、自由にエサや水が摂れなくなります。さらに、乳牛の搾乳中に牛がばたつき、搾乳機械を落としたりします。

サシバエは、ふだんは牛舎周辺の草むらや木陰で生息していますが、吸血のため牛舎に侵入し、吸血後はまた草むらに戻って休息します。草むらはサシバエの産卵場所ではありませんが、吸血後の移動を妨げるだけで、生息数を減らせることがわかっています。サシバエは、吸血すると体重が重くなり高く飛べなくなるので、地際から高さ2mの防除ネットを張れば、移動できなくなります。



今回、フリーストール牛舎の酪農家で、防除ネットを利用したサシバエ対策に取り組みました。サシバエだけでなく、カラスに牛の乳房が攻撃される被害も受けていましたので、カラス対策も同時に行いました。地際から地上2mまではサシバエ用に2mm目の細かいネットを、地上2mから軒下まではカラス用に2cm目の粗いネットを張り、2種類のネットは果樹ネット用のクリップで接続しました。このようにサシバエとカラス両方の侵入を防ぎながら、できるだけ通気性を確保するよう工夫しました。

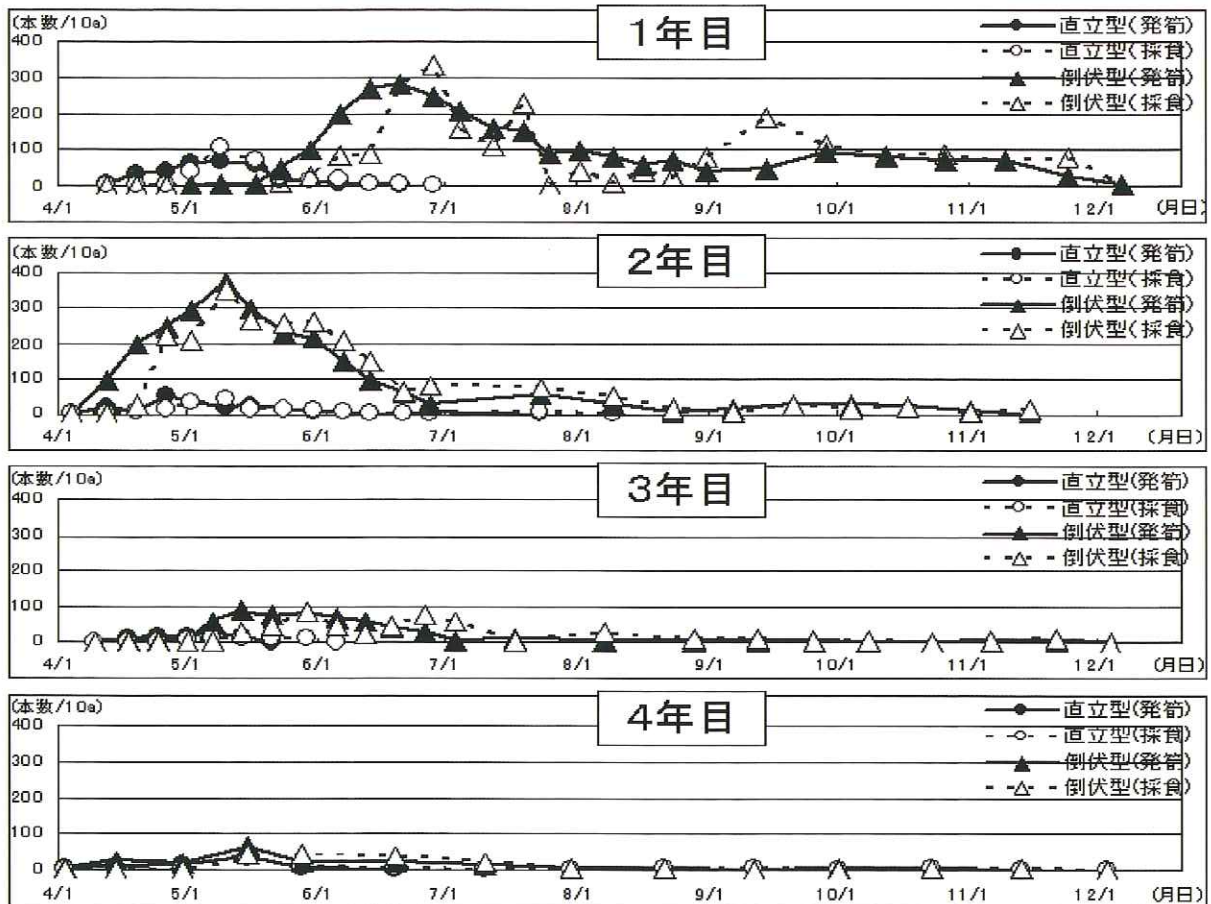
ネット設置による効果は非常に大きく、牛にたかるサシバエの数が、1頭当たり約30匹から3匹まで減少しました。牛はゆったりと横になり、密集しなくなり、搾乳中にもばたつなくなり、目に見える効果が現れました。なお、畜主が毎日畜舎内の除糞を行い、発生源をなくす対策を取っておられたことも重要なことです。

サシバエに悩まされておられる事例がありましたら、今回のノウハウを生かして対応したいと考えていますので、どうぞ御相談ください。

竹林に肉用繁殖雌牛を放牧してみませんか

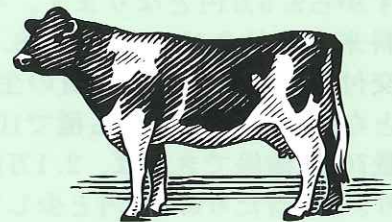
当センターでは、平成18年度から4年間、皆伐したモウソウチクの竹林に肉用繁殖雌牛を放牧し、タケノコの採食、牛の行動、タケノコの発生量等について調査を行いました。

4年間の調査の結果、タケノコの採食は急峻地を除き4月～11月までの全期間で認められ、その採食率(牛がタケノコを食べる率)は4年間で93%以上で、再竹林化防止効果は顕著であることが判明しました。さらに竹の現存量を皆伐前を100としたところ、3年目の冬には放牧区では3%以下で竹林回復は認められないが、放任区では42%まで回復することもわかりました。ただし、竹林だけでは放牧に適さず、牛にタケノコを食べさせる馴致が必要です。



発筍・採食量の推移

平成15年4月に第1号となる「畜産技術センターだより」を発行しましたが、京都府内にある試験研究機関を1本化して、京都府農林水産技術センター 畜産センターとして、昨年度再出発をしました。たよりも「畜産センターだより」としてお届けしています。今後ともよろしくお願ひします。



飼料米の利用拡大と定着に向けた課題と取組みについて

食料自給率の向上や水田の有効利用の観点から重要な稲の飼料利用のうち、穀実を利用する飼料米は、輸入トウモロコシ価格の高騰が発端となった平成19年の配合飼料価格の急騰を契機に注目が集まり、平成21年の作付け面積が全国で4,129haと急速に伸びています。飼料米の給与は、生の籾米を乳酸発酵して利用するソフトグレインサイレージや乾燥した籾米や玄米の状態で行われています。



なお、牛、豚については消化率の向上のために圧ペンや粉碎等の加工が必要ですが、鶏は消化率が高いため加工する必要はありません。給与量については、市販配合飼料に10%混ぜるものから、配合するトウモロコシの全量を置換えるものまで様々ですが、いずれの場合も嗜好性には問題なく、十分利用できます。

このように飼料米は、日本の自給飼料として高いポテンシャルを持っています。しかし、実用技術として定着させるには、生産・利用に関する課題をクリアする必要があります。

大きな課題は、飼料としての価格です。飼料米の利用を想定する場合、比較対象となるのは輸入トウモロコシです。その点から考えると現状では玄米1kg当たり30円以下にする必要があります。そのためには、低コスト生産が不可欠ですが、その方法には、育苗に必要な労力と経費を低減できる湛水直播を籾のコーティングが安くてすむ鉄コーティングで行うことや家畜堆肥利用を利用して化学肥料をできるだけ抑えることがあります。この2つを実践すると生産費を23.5%減少させることが可能です。農林水産統計の平成20年産の10a当たりの米生産費は、全国平均で12.4万円ですから9.5万円となります。平成22年度の飼料米の交付金は10a当たり8.0万円であり、交付金を差し引くと実質の生産費は1.5万円となり、飼料用専用品種で10a当たり玄米収量700kg確保できれば、2.1万円の販売額となり、10a当たり0.6万円と少しですが収入を得ることが可能です。また、肉牛飼料として貴重な国産稲わらを飼料として販売すれば

販売分の収入が得られますし、更に、飼料米の利用を鶏に限定すれば、乾燥と粉摺り等にかかる経費1kg当たり20円をも節約できる可能性があります。

当センターでは、今年度から農林水産省の「新たな農林水産政策を推進するための実用技術開発事業」により低コストを目指した新しい飼料米の生産・利用体系の試験研究を開始しています。目指す飼料米の利用は、収穫した籾米を乾燥せずに、有機酸を添加してフレコンバッグやグレインタンクで保存し、農家でそのまま一定量を配合飼料に混合、または自家配合で利用する形態です。今後は、有機酸処理した籾米の保存性や鶏の嗜好性、グレインタンク内での保存状況や自動給餌機への影響等の研究による技術確立を通して飼料米の利用拡大と定着を図っていきたいと考えています。

九州から雌牛を導入しました。採胎しましたので、受精卵として利用してください

平成21年度は宮崎県から13頭の改良基礎雌牛を導入しました。

血統は全て「忠富士」で、詳細は下表のとおりです。

牧場No.	名号	生年月日	期待育種値	母牛得点	父	母の父	母の母の父
98	すずさと120	H20.7.22	母BB-B	81.6	忠富士	安平	糸秀
99	にしかず116	H20.7.25	AB-A	81.1	忠富士	糸秀	隆美
100	ふくむすめ257	H20.7.26	BABA	81.8	忠富士	安平	糸秀
101	第608みちこ	H20.7.27	母BB-B	80.2	忠富士	安平	紋次郎
102	ふじみ	H20.7.28	ABBB	80.3	忠富士	福桜(宮崎)	紋次郎
103	きん	H20.7.28	BB-B	80.8	忠富士	安平	福茂
104	なつみ	H20.08.06	AA-B	80.2	忠富士	福之国	糸秀
105	ふじこ	H20.08.10	AA-A	83.0	忠富士	福桜(宮崎)	安平

21年5月導入の8頭は、13か月齢から2回採胎して52個の凍結胚を作成後、全て受胎し、7月から出産が始まります。

また、21年12月導入の5頭は、15か月齢から採胎して48個を凍結し、現在、受胎を待つ状況です。

九州からの改良基礎雌牛の導入は、平成7年度に鹿児島県から8頭を導入したのを初め

牧場No.	名号	生年月日	期待育種価	母牛得点	父	母の父	母の母の父
107	ゆりこ	H21.02.01	BABB	81.4	忠富士	安平	糸秀
108	もも	H21.02.05	母AA-A	83.8	忠富士	安平	福茂
109	もも	H21.02.07	母AB-A	81.0	忠富士	安平	隆桜
110	ほのか	H21.02.12	母AB-B	80.0	忠富士	福桜(宮崎)	安平
111	ゆき6	H21.02.16	AB-A	81.0	忠富士	福桜(宮崎)	大将

*期待育種価は、枝重・ロース芯面積・皮下脂肪厚・脂肪交雑で、A:上位 1/4、B:上位1/5、-:1/2



平成21年5月導入の改良基礎雄牛たち

として、平成17年度には宮崎県から4頭を導入するなど、現在までに71頭となっています。

これらの牛は「2回採胎した後に受胎・出産」を繰り返し、「安福久」や「百合茂」をはじめ、みなさんのニーズに合った優秀な種雄牛を交配して受精卵を譲渡しますので、経営に役立てていただけるようお願いします。

年度	7年度	8年度	12年度	13年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
生産地	鹿児島県	鹿児島県	鹿児島県	鹿児島県	宮崎県	鹿児島県	鹿児島県	鹿児島県	宮崎県
頭数	8	7	6	7	4	5	10	11	13
父	神高福 6頭 第20平茂 2頭	神高福 4頭 第20平茂 3頭	平茂勝 4頭 金幸 2頭	神徳福 4頭 金幸 2頭 平茂勝 1頭	安平 4頭	勝忠平 2頭 百合茂 3頭	勝忠平 3頭 百合茂 3頭 金幸 4頭	勝忠平 6頭 金幸 3頭 百合茂 2頭	忠富士 13頭
母の父	第20平茂 6頭 神高福 1頭 金水 9頭	第20平茂 4頭 神高福 1頭 神忠福 1頭 田安福 1頭	神高福 4頭 忠福 2頭	第20平茂 3頭 神高福 1頭 神高福 1頭 平茂勝 1頭	隆桜 3頭 福桜 1頭	金幸 2頭 神高福 1頭 神高福 1頭	平茂勝 4頭 神高福 2頭 金幸 1頭 安平 1頭 忠福 1頭 神徳福 1頭	平茂勝 5頭 金幸 3頭 第5集福 2頭 神高福 1頭	安平 7頭 福桜 4頭 糸秀 1頭 福之園 1頭

乳用育成牛の譲渡事業

碓高原牧場では昭和54年の開場以来、30年間府内酪農家から子牛を購入し、強健かつ足腰の強い牛に育て、妊娠牛として譲渡する事業を行っています。昭和61年からは和牛受精卵移植を取り入れ、和牛子牛販売による酪農家の所得向上にも貢献し、これまで、当事業を利用して頂いた実農家数は168戸、譲渡頭数も684頭となっています。

平成22年春に、酪農家の皆様にご協力をお願いし、より一層、利用してもらいやすい事業とするため、アンケートを実施しました。

その結果は、1年半の育成及び半年の短期育成について、和牛での受胎が多いことや強健で長持ちであることが評価されましたが、短期育成牛に関して、頭数増や1年間程度の期間と、価格については安価になるよう検討して欲しいとの意見がありました。また、通常の育成を止めて半年の短期育成のみにすることについては、反対意見が最も多くありました。

当场では今回のアンケートも踏まえ、割高感のあった短期育成牛の価格算定方法を見直



し、これまでの価格より安価で提供していきます。

なお、当场は積雪の関係もあり、飼養期間の延長や買上頭数増が難しい状況ですが、今後も酪農家の皆様が利用しやすい事業になるよう努めていきます。

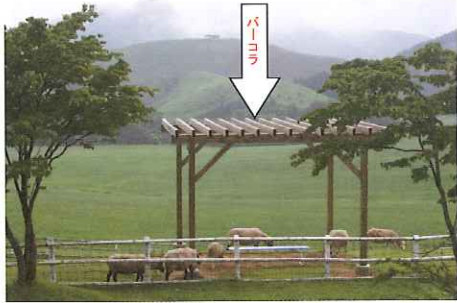


国民文化祭・京都2011
PR隊長 まゆまる

ふれあい施設周辺を整備しました。

碓高原牧場では、『京の木の香り事業』や『緊急雇用創出事業』を利用して、ふれあい施設周辺の整備を行いました。

『京の木の香り事業』で、「ふれあい広場」の3か所にパーゴラ（棚）を配置し、日陰を作り、牧場風景を眺めたり、ヒツジやヤギとふれあえる時間が快適になるようにしました。また、碓高原ステーキハウス



に隣接する「まきばホール」には、京都府産の木材を利用した重厚なベンチとテーブルを3

セット設置し、快適な空間をつくりました。

『緊急雇用創出事業』により実施した雑木の刈払い等で、池を含むふれあい広場周辺や広場からの眺めがより牧場らしい風景になりました。



今年度前半は国内での口蹄疫発生による防疫対応で、京都府の当場でもヒツジやヤギと

ふれあえる区域を立入制限したため、来場する観光客の方々には残念な思いをさせることになりました。

口蹄疫の終息とともに、当場でのふれあいエリアの立入制限も緩和しました。牧歌的風景を味わいたい方や四季折々に咲く花(水仙、桜、菖蒲類、ニセアカシア、紫陽花、ラベンダー等)を楽しみたい方は是非おいで下さい。

酪農家を訪ねて

綾部市の酪農家の野村晋さんを紹介いたします。野村さんは実家が酪農家で、高校時代から酪農経営を夢みておられました。実家はお兄さんが後継され、野村さんは農業大学を卒業後、綾部酪農協に勤務し、14年間人工授精業務と酪農指導に邁進されてきました。この間、新規就農の候補地を調べるなどの努力を経て、平成15年に念願の牧場を取得し就農され、現在、成牛約30頭の酪農経営をされています。

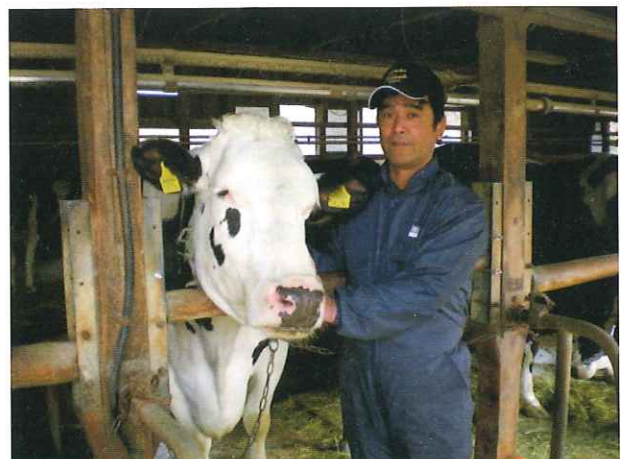
野村さんは、「リスクの少ない牛群」づくりを目指しておられ、「乳器」、「肢蹄」の体形形質にも注意しながら、府のスーパーカウ系統牛の受精卵も活用して改良速度を速め（現在、野村牧場では成牛10頭）、平均乳量1万kg以上を達成されました。

換気や暑熱対策、牛床マットなど牛舎環境の改善をし、飼料はコンサルタントと相談し飼料設計して、乳牛の個体観察によりサジ加減をするなど、飼養管理にも注意を払っておられます。

～綾部市 野村牧場 ^{のむら} ^{すすむ} 野村 晋さん～

野村さんの感心させられるところは、何事にも研究熱心なことです。堆肥づくりでは、堆肥成分の季節的な違いも把握し、良質堆肥を生産しておられるので、「水菜などの施設園芸を中心に需要が多く、すべての注文には対応できない」とおっしゃっています。

最近では牛白血病対策のため、「飼育牛は感染牛と非感染牛に分離して飼育し、後継牛となる雌子牛には初乳を加熱処理して給与す



る」など、疾病対策にも熱心に取り組んでおられます。詳しく伺いしてみると、牛の持つ牛白血病ウイルス量から胎盤感染、初乳感染、吸血昆虫などによる水平感染など科学的

に状況を把握して対策をとっておられるのに驚きです。

関係者も今後の活躍をたいへん期待しています。
(小牧 記)

肉用牛繁殖農家を訪ねて



京丹後市丹後町で肉用牛繁殖農家を営む大江健人さんの牛舎を訪ねました。大江さんは平成 18 年に大学を卒業してから就農され、この春で 5 年目になります。牛舎は山沿いの自然豊かなところにあり、全部で約 60 頭の牛を飼養されています。一部肥育も手がけら

～京丹後市丹後町 おおえけんひと 大江健人さん ～
れていますが、繁殖を主体として取り組まれ、管理は父の良樹さんと 2 人で行われていますが、大部分は健人さんが任されています。

「無理をせずいい牛を生産していきたい」と語る大江さんは、よい子牛をより多く市場に出していくことを第一の目標に、日々の飼養管理に細心の注意を払われています。生まれた子牛の健康管理はもちろん、子牛が生まれる前から母牛の健康状態を良好に保つことがよい子牛の生産に必要と考え、日々の健康観察や飼養管理に余念がありません。

山沿いの牛舎近くには放牧地が 2 カ所あり、主に妊娠牛の放牧に利用されています。他に牧草地も所有しており、「恵まれた立地条件を最大限に生かし、よい子牛を生産していきたい」と語られます。

京都府としても、大江さんのような気概のある若い後継者の方たちをできる限り支えて行き、ともに京都府の畜産を盛り上げていきたいと思ひます。
(石森 記)

養鶏農家を訪ねて

～養鶏農家を訪ねて 京都府宇治市 しみずけんじ 清水健次さん～

京都府と滋賀県と県境、静かな山間にある「あすなる鶏園」の清水健次さんを訪ねました。

清水さんが養鶏を始められたのは昭和 34 年で、最初は共同で採卵鶏 1,000 羽から始めて、最盛期は高床鶏舎で最大 37,000 羽飼われていましたが、飼料の高騰や施設の老朽化に伴い、養鶏を始めたころの平飼い養鶏に戻そうと思われたそうです。

現在は平飼い鶏舎で採卵鶏を 2,000 羽飼われています。清水さんの平飼い鶏舎はユニークで既存の高床鶏舎の鶏を飼っていない一階部分を改装し、必要な部材や産卵巣箱のケージ等は 2 階の鶏舎部分を流用して、すべて手作りで低コストに仕上げられています。この鶏舎は、当センターが行ったアニマルウェルフェアという家畜の快適性に配慮した飼養管理の

概念を平飼い養鶏に取り入れた研究を見て、これだと思いつかれ、すぐにセンターの施設を見学、参考にしてコツコツと作られた自慢の鶏舎です。実際に飼われてみた感想を聞くと「やっぱり鶏の元気が違うし、卵の質も良

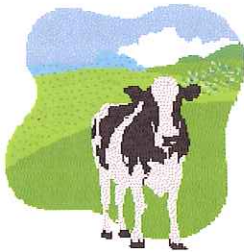


いし、平飼いにしてよかった」とのこと。

生産した卵は直売や地元の料理屋さん等を中心に地域に密着した販売を展開、取材時には配達で不在の息子さんと二人三脚で「あすなる鶏園」を切り盛りしていらっしゃいます。

最後に今後のことを聞きますと「羽数とし

ては無理せずこのままで、今は配合飼料だけ給与しているけど、畑で作った緑餌も給与したい」と意欲十分です。おいしい卵を提供する地域に根ざした養鶏農家として今後もがんばっていただきたいとの思いを胸に鶏舎を後にしました。
(合田 記)



畜産センターで乳牛とのふれあいや酪農体験もできますよ

～23年度に酪農教育ファームの認証取得予定～



多くの府民に酪農の生産現場を知ってもらい、牛乳・乳製品をたくさん食べ、また、京都の畜産の応援団となってほしいとの思いから、当センターを酪農体験学習の場として活動を展開しています。



夏休み親子ふれあい畜産広場

毎年、多くの子供たちが訪れ、乳牛とのふれあいを楽しんだり、乳搾りやほ乳を体験し乳牛の優しさやすばらしさを体感しています。

平成 23 年度には、酪農体験を通じて食やいのちの学びを支援する「酪農教育ファーム」の認証を受け、食育活動を一層充実させることとしています。



かわいい子牛とのふれあい

学校や子供たちから酪農体験をしてみたいなどの話がありましたら、是非、当センターをご紹介下さい。

畜産センターのホームページです。

京都府
Kyoto Prefecture Web Site

行政情報 | 暮らし・環境 | 教育・文化 | 健康・福祉・人権 | 産業・しごと | 地域振興

京都府 > 農林水産業・農山漁村 > 畜産センター > 京都府農林水産技術センター畜産センター

京都府農林水産技術センター畜産センター

本文を音声で聴く (ご利用案内)

京都府農林水産技術センター畜産センターは、安全で品質の高い畜産物生産や環境対策技術に関する研究及び技術支援を通じて、農家の皆様の経営改善や地域活性化、また畜産物の安心・安全の確保に努めています。

Kyoto Prefectural Agriculture, Forestry and Fisheries Technology Center
Livestock Technology Department



ほ乳体験